Press Release

2003年10月10日

フォルクスワーゲン ルポ カップ シリーズ 最終戦（ホッケンハイム）リザルト

10月5日（日）、ドイツ連邦共和国バーデンヴュルテンベルク州にある「Hockenheim Ring：（ホッケンハイム　サーキット）」にて、ドイツ国内で開催されているフォルクスワーゲン ルポ カップ シリーズの最終戦が開催され、ルポ GTI カップ ジャパン2003のシリーズ チャンピオン：壷林貴也選手（CRT Lupo GTI）と、同じくフォルクスワーゲン レーシング カップ2003のシリーズ チャンピオン：浜崎大選手（ヴェンチュラーEG GOLF）の2名が、日本からの招待選手として初参戦しました。

ドイツで6年目を迎えるルポ カップ シリーズは、来年以降、他の車両を使用する新シリーズへの移行が決定された為、今回は記念すべき最終戦となりました。
慣れないコンディションにも関わらず、前日の予選では見事ポールポジションを獲得した壷林選手は、地元の新聞で"Sushi-Bomber"（寿司ボンバー）と紹介されるなど、スタート前から大きな注目を浴びていました。雨の決勝となった薄暗いサーキットでホイールスピンによりスタートに出遅れた壷林選手は、1周目に5番手まで後退すると、その後数周にわたりトップグループとの激しいデッドヒートを繰り返しました。しかし惜しくも6周目に後続車両に追突され、そのダメージによりピットイン、無念のリタイヤとなりました。

一方、予選17位の浜崎選手はルポGTIに乗る事も初めてでしたが、持ち前のチャレンジ精神で雨の中果敢に突き進み、クラッシュやコースアウトが続出する中、着実に順位を上げ、決勝レース最速のタイムを記録するなど存在感のある走りを披露、見事10位で完走しました。また、浜崎選手は同日実施の、往年のF1パイロット、エマニュエル ピロ、フォルクスワーゲンレーシング代表クリス ニッセンやトゥアレグにて来年度のパリダカ参戦が決定したユタ クラインシュミット等が賛同したルポ チャリティ レース"Bye-Bye Lupo Cup"にもゲスト出場し、レース中盤では7番手と臆すること無い走りを披露。日本のドライバーの優秀さを大いにアピールしました。同レースの利益は全て、ストリートチルドレンをサポートするフォルクスワーゲングループ従業員の手による"One hour for the future"プロジェクトへ寄付されました。

＜日本人ドライバーのコメント＞
壷林選手：レースではぶつけられて残念な結果となってしまった。ただ日本のサーキットと違い、コース取りが難しく攻略しがいがあるサーキットで、初めての車、コースで、練習走行が雨天の30分のみ、しかも予選がドライというコンディションでポールを取れた事で大きな自信に繋がった。
浜崎選手：予選後、壷林選手にコースの攻略法を伝授して貰い、レース中にファーステスト ラップを取れたこと、そしてルポチャリティーレースの中で、エマニュエル ピロ等、一流のドライバーと一緒にバトルが出来たのは非常に嬉しく、一生の経験として残りました。